

## 《第6年度（2022.12～2023.11）の活動概要》

炭焼き体験会 2023 では、前年の失敗を踏まえて様々な改善を行った結果、良好な炭を焼くことが出来た。みどりのイベント 2023 では、新たに竹の皮のコースターづくりを試みたが、作り方に改善の余地を残した。

竹垣展示圃は、資材置き場前に建仁寺垣と大津垣の縦型・横型を設置し、園全体の構想を完成させた。竹・花木園では銘竹コーナーに3品種が揃い、花木コーナーも3年を経過して、苗も一定の大きさに育ち、充実した景観となってきている。

花咲かせ隊の活動も、公園を訪れる人々の目を楽しませており、花木園と併せて、近隣住民から感謝の声が多く聞かれている。

応募した第58回東京都公園協会賞で優秀賞を獲得し、9月に記念植樹を行った。このように、すぎなみ炭焼き塾くろすけの活動はテイク・オフして、高度を上げる段階から、一定の高度に達し、水平飛行の局面に入ったと見られる。今後は、活動の量的拡大よりも品質の向上が求められ、技術の継承も課題となってくる。

## I. 『すぎなみ炭焼き塾』の活動

### 1. 落ち葉感謝祭2022への参加（2022.12.3）

飾り炭体験と竹の皮容器づくりを提供。来場者は48組・約150名とまずまずであったが、前年(60組・約200名)よりは少な目であった。理由としては、コロナ禍の関係で前年まで中止になっていた焼き芋コーナーが再開し、そちらに集客力が強く働いたことによる。

課題：前年度まで焼き芋コーナーが開催していなかったため、ドラム缶半割等器材や燃料薪等の手配が不足していた。飾り炭の材料も少な目であった。

### 2. 第10回炭焼き体験会の開催（2023.3.4～5）

前年に引き続き開催。炭材の雨濡れ防止のため保管場所の変更、ドラム缶窯の焚口の改善、燃焼時間確保のため、窯設置穴を掘った日に窯を仮設置したこと等が功を奏し、ほぼ満点の良炭が焼けた。

課題：竹煙突と窯からの垂直菅との接続方法、焚口の風量調節の設えなど。

（詳細は『炭焼き体験会ハンドブック』に記載）

※炭焼き体験会の開催案内がJ:COMで放映され、また、開催当日も取材・放映され、認知度が高まった。

### 3. みどりのイベント2023への参加（2023.5.28）

昨年に続いて、植木応援団と連携し竹細工を提供した。竹材料は宮前公園の竹を使用。くろすけ独自としては、竹の皮のコースター・容器づくりを提供した。

炭焼き体験会開催状況や宮前公園竹林の循環再生の取組のパネル展示、『みどりの基金』へカンパいただいた方への木炭・竹炭・木酢液の配布については例年どおり実施。

また、会場内に設置した竹製の**鹿威し**は子供たちに楽しんでもらえた。

課題：コースター作りは、より簡便な作り方を検討する。

鹿威しは安定性への工夫、2連式・3連式のより楽しい型式を検討する。

## II. 『宮前公園育て組』の活動

### 1. 竹垣展示圃の完成

資材置き場前に建仁寺垣、大津垣の縦型・横型を製作した。

この完成で計画どおりの竹垣展示圃が出来上がった。

### 2. 竹・花木園への植栽

#### ① 銘竹コーナー

スズコナリヒラタケを植栽して、ホテイチク、クロチクと合わせて**3品種**が揃った。

#### ② 河津桜の跡に五色梅を植栽した。

#### ③ 四ツ目垣につる性植物を植栽し、**つる性草花のコーナー**とした。

#### ④ 東京都公園協会賞 **受賞記念**にハナズオウを春のコーナーに植樹した。

※ 花木園に植栽を進めて3年目となり、小さな苗木も成長して景観が充実して来た。

今年美しく咲いた木：玄海ツツジ、紅梅、シャクナゲ、ボタン、クチナシ、ウツギ、ジンチョウゲ、バラ、ムクゲ紅、サルスベリなど

### 3. 竹林の更新

#### ① 今年**孟宗竹**の発生が少なかった。一方、**真竹**は一定の発生があり、更新が進んだ。

・**北ブロック**の発生は16本とさほど多くはないが、まずまずの数

ただ、中央部の空間では依然発生がほとんどなく、引き続き養生が必要。

・**南ブロック**の発生は6本と前年の30本に比べて極端に少なかった。

全体では250本ほどがあり、密な個所があるので、竹垣づくりや、竹炭材として活用して間伐を進めて行く。

・**真竹林**は発生が多く、疎らであった区域もほとんど解消し、青々とした竹林に再生出来てきている。

#### ② 竹穂垣の更新・補修

南ブロックの中央通路側を更新（3月～4月）

竹穂垣の支柱が緩くなった個所等を随時補修し、竹穂の補充も行った。

#### ③ 門扉の更新

南ブロック東側：龍安寺垣と大津垣のミニチュアを繰り入れた型式を設置（3月）

#### ④ 林床整備：切り株の除去、下草刈り、施肥などを随時行った。

### 4. 『宮前公園 花咲かせ隊』第3年度の活動

#### ① 春花壇定植（1月19日）、夏花壇定植（5月17日）、秋花壇定植（10月5日）

#### ② 水遣り器具の整備：

ア. 花木園までの給水のため30mのホースを備えていたが、かなりの重さと巻き取り時の振じれなどで取り扱いが一苦勞であった。そこで、ホースを半分に切断して竹林内

に約 15mのホースを常置した。しかし、これに接続する残りの約 15mのホースの扱いが依然容易でなかったため、新たに巻き取り器具付の 15mホースを購入した。

イ. 水道栓との接続器具も取り外しが簡易なものを使っていたが、仕様頻度が増すにつれ、ゴムパッキングが破損することにもなったため、ネジ式の固定器具に取り換えて常設とした。

ウ. 上記の処置により、第 2 花壇およびその周辺は既存の 15m 巻取り器具付ホースで対応できることから、第 1 花壇・花木園と同時作業が出来ることになり、水遣り作業は 2 人体制で比較的短時間で出来ることとなった。

## 5. 各種の活動

- ① 門松づくり：前年に引き続き「笑い入りの 斜め切り（そぎ）」と「水平切り（寸胴）のセット」2セットを製作し、杉並区役所の南玄関と西玄関に設置した。
- ② 中・低木の剪定：年間を通じて実施。
- ③ 野草の植栽  
四ツ目垣をつる性植物の展示コーナーとした。
- ④ みボ杉参加者の受け入れ：みボ杉の参加者を月 1 回の活動に定期的を受け入れている  
毎回 5 名程度が参加。

(みボ杉新人を対象とした活動)

- ・竹の伐採・枝打ち
  - ・シュロ縄での男結び（綾型イボ結び）の講習を行った。(5月)
  - ・竹穂垣の製作（竹竿の半割、支柱立て、押し縁の取り付け、竹穂の差し入れ等）を指導。
- ⑤ 大容量道具入れの設置：倉庫が手狭になったため、屋外で収納する大容量の道具入れを竹で製作した。(竹の皮、フレコンバック、バケツ等を収納)
  - ⑥ 『宮前公園樹木 MAP』を作成し、芽吹き花壇横に竹製の掲示板を立てて設置した。
  - ⑦ ドラム缶窯炭焼きや竹垣づくり等の技術の向上・継承のためハンドブックを作成した。  
『くろすけハンドブック（初版）』『炭焼き体験会ハンドブック（初版）』

## III. 教育関連機関・グループへの協力

- ① 天沼小学校おやじ会へ竹太鼓用竹材 1 3 本を伐採して提供した。
- ② 荻窪小学校関係者親子のグループが開催する「竹の子狩りイベント」への場所提供  
竹の子の発生が少なく規模を縮小して開催 (4月29日)

## IV. 会員の状況

登録会員数 30 名： 定例活動参加 26 名 (Av.17、Max23)、 炭焼き体験会のみ参加 2 名  
休眠会員 3 名

※ 今年度新規加入会員は無

以上

## ≪全体の方針≫

活動レベルを維持しつつ、品質を高める。また、技術の継承を行って行く。

### I. 『すぎなみ炭焼き塾』の活動

1. 落ち葉感謝祭2023(2022.12.2開催)へ参加する。

飾り炭体験と竹の皮細工を提供。

2. 第11回炭焼き体験会をみどり公園課と連携して開催する。

実施予定日2024年3月2日(土)～3日(日)(雨天順延)

炭焼き、飾り炭体験、椎茸菌打ちを提供。

3. みどりのイベント2024(2024.5月開催予定)へ参加する。

団扇づくり(絵描き)の提供、植木応援団と連携して竹細工を提供する。

※各イベントにおいては、『みどりの基金』への募金者へ木・竹炭・木酢液を配布する。

### II. 『宮前公園育て組』の活動

1. 竹林の整備

#### ① 竹林の循環更新

・北ブロック：西側は概ね林間整備が出来ているので、東側の整備を進める。

中央の疎なエリアは引き続き養生を行う。

・南ブロック：黄変や曲がった竹、密な個所があるので、間伐を進め、竹林を若返らせる。

・林床整備：切り株の除去、下草刈り、施肥を行う。

・真竹林：黄変した竹、曲がった竹や細い竹はほとんど除去できている。

今後は真直ぐな青竹を適正本数育成し、見映えを良くする。

#### ② 竹穂垣の更新

3～4年経過して劣化した個所を順次更新する。

2. 竹垣展示圃

① 傷んだ個所の補修を行う。

② 四ツ目垣の更新を検討する。

3. 樹木の剪定と花木の育成

① 花木園で苗木を育成し、大きく育った花木を公園内に移植し、公園内の美化を進める。

② 中・低木の剪定を行う。

### III. 『宮前公園 花咲かせ隊』の活動

1. みどり公園課から花苗の供給を受け、年3回花壇の入れ替えを行う。

2. 『草木の小道』で山野草を育成する。

3. 腐葉土づくり：落ち葉溜めで腐葉土をつくり、花壇・花木園で活用する。

### IV. 地域の活動との連携

教育関連機関・グループへ竹材や竹林活用機会を提供する。

以上